

IZUCHU図書館

和泉中学校図書館 第69号 2020年1月発行

◆「読書の時間が少ない」のが和泉中生の課題です。
『生活の中で読書の時間を確保する』を今年の目標に！
◆3年生の貸し出しは2月7日をもって終了します

●今年読みたい本●

◆『川の光』◆

松浦寿輝・著

新天地を求めて旅に出た小さなネズミ一家の大冒険物語

せせらぎに守られた平和な暮らしは、突然の埋め立て工事で終わりを告げる。クマネズミ一家は長年住んでいた家を捨て、別の河原を求めて旅に出ることになる。2020年はネズミ年なので、小さなネズミの大冒険を楽しんでもらおうとチョイスした一冊…だが、これは可愛い無邪気な物語ではない。敵の出現や悪天候、恐ろしく困難な悪路など、さまざまな危険がネズミ親子に襲いかかり、そのたびにもう駄目だ！と思うが、間一髪で危機を乗り越えていくハラハラドキドキの展開が待ち受けている。予想を裏切る面白さにはまって欲しい！



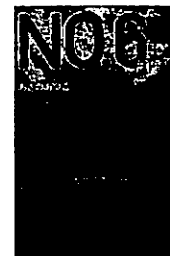
◆『ナンバーシックス #6』◆

あさのあつこ・著

理想都市の隠された謎と真実を追う二人の少年シオンとネズミ

理想都市「NO.6」の中にある高級住宅街「クロノス」。クロノスに住めるのは知能面などで最高ランクと認定された者(いわゆるエリート)とその家族だけ。幼い時からクロノスで暮らしてきたシオンだったが12歳の誕生日に矯正施設から抜け出してきた少年・ネズミと出会い、負傷していた彼を助ける。しかし、そのせいでシオンはクロノスに住む資格をなくされ、街を追われる立場になってしまう。

清潔で美しく快適な都市に隠された思想統制と厳格な管理体制。その裏に恐ろしい謎が…。



◆『DIVE!』①~④◆

森絵都・著

高飛び込み。わずか1.4秒の空中演技でオリンピックを目指す少年たち

5m、7.5m、10mの高さからプールに向かって飛び込む瞬間。そんなマイナーな競技に魅せられた少年たちの前に一人のコーチが現れる。「わたしたちが目指すのはオリンピック！」その時から、少年たちの周りの景色が変わり始める。「来年のオリンピックにこのクラブから日本代表を送り出す」それがダイビングスクール存続の条件。少年たちの揺れ動く心情が細かく描かれている。「飛び込み」という未知の世界にぐんぐん引き込まれる。



◆『負けるな、届け!』◆

こじかさら・著

人はなぜ誰かを応援するのだろうか？ 読めば元気がもらえる応援小説！

25年も勤めてきたにもかかわらず、リストラされ心に大きな傷がついた小野寺かすみ。そんな時、友人から「東京マラソンの応援」に行こうと誘われる。軽い気持ちで応援に行きたかすみは全力で応援する友人の姿に衝撃をうける。「頑張っている人には『ここに応援してる人がいるよ』ってしっかり伝えることが大事だから、大きな声で声援を贈るんだ。思いを届けるために声を張り上げるんだ。誰かにエールを贈ることで自分も奮い立つ！」



◆『LGBTQを知っていますか?』◆

星野慎二・著

「みんなと違う」はへんじゃない

私たちの社会には様々な人がいる。無意識な思い込みが誰かを傷つけたり、あるいは傷ついたりしているかもしれない。まずは知ることから始めてみよう。文字も大きく、ところどころに当事者たちの気持ちがわかる4コマ漫画もあるのでとても読みやすい一冊。

自分ってなんだろ？／多様なセクシュアリティ／LGBT当事者の体験談／セクシュアルマイノリティが直面する問題／学校現場の先生へ…の四部構成で説明されている。



◆『82年生まれ、キム・ジョン』◆

チョ・ナムジュ・著

BTSのRMもおススメ！

ある日突然、精神に異常をきたしたキム・ジョン。誕生から学生時代、受験、就職、結婚、育児…彼女の人生を克明に振り返る中で今までの人生にたちはだかってきたものが浮かび上がる。女性の人生で出会う困難や差別を描き、韓国で社会現象を巻き起こした話題作。韓国の男尊女卑がすごい！けれど、日本も例外ではないかもと考えさせられる一冊。



The 職業!

3学期は職業講話(1年生)や、キャリア教育体験活動(2年生)があります。
また、3年生も将来の進路をみすえて、職業についての本を読んでみませんか?



◆「天使の荷物」◆

いとうみく・著

中2、斗羽風汰。職場体験先は、保育園。軽い気持ちで選んだはずが、保育園の仕事は目の回るような忙しさ。子どもたちに人気者になった風汰だが、だんだんひとりの5歳児が気になりはじめる。「あの子は本当に親に大切にされているのかな?」社会のさまざまな問題に直面し、考え、成長する風汰の職場体験を描く。



◆「給食のおにいさん」◆

安藤彩見・著

コンクールで優勝するほどの腕を持ちながら、小学校の給食調理員として働くことになった料理人の宗。はじめは小学生たちに受け入れてもらえず大苦戦。しかし、子どもたちが個々に抱える食の問題を知り、考える中で自分も少しずつ変わっていく。笑いと感動、そしてスパイスの効いた食育&青春小説。



◆「会社員の仕事」◆

「お父さんの仕事は会社員??」でも、会社っていったい何だろう??会社員ってどんな仕事をする人なのかな? 以下の三冊があるよ。

- ① 会社ってなんだ?
- ② 会社とお金のカンケイ
- ③ 会社員の仕事を追え!



◆『ふしぎなハンカ千遊び100』◆

まるめて、折って、結んで、巻いて、ハンカチが一枚あればバナナ・ネズミなど楽しい遊びに早変わり!



小さな子どもたちのいる職場に行く人は、ちょっと知っておくと子どもたちと仲良くなれるかも!

◆『松下幸之助』◆

厳しい丁稚奉公(でっちぼうこう)から商いの道を学び、パナソニックという世界的な大会社を作り上げた松下幸之助氏。これを読めば「経営の神様」と呼ばれる理由がわかります。文字も大きくてスラスラ読める。有名な「水道哲学」を予習してから「パナソニックミュージアム」への体験学習に行こう!



◆『安藤百福(あんどももふく)』◆

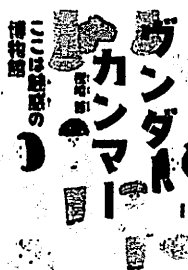
失敗と成功をくり返しながら、日清食品の創業者となり即席ラーメンとカップラーメンを発明したのが百福氏。彼の発明は日本だけでなく世界の食文化に一大革命を巻き起こした。ミスター・ヌードルのことを知ってから「カップヌードルミュージアム」の体験学習に行けば、きっとより深く学べるはず。



◆「ワンダーカンマー ここは魅惑の博物館」◆

櫻崎茜・著

「博物館かぁ。いったいどんなことをするんやろ」はじめての職場体験先はまさかの奇跡の部屋だった。5人それぞれの刺激に満ちた一日。読むだけで博物館という未知の世界にふれることができるとても楽しい本。



◆『新13歳のハローワーク』◆

村上龍・著

「国語が好き」「社会が好き」など、好きな教科から見つける職業図鑑。(「好きなものが何もない」という人のためのページもある)130万部以上の大ベストセラー。ページの合間に著者・村上龍氏のエッセイがあり、そのエッセイ部分を読むだけでも職業について考えさせられるよ。

〈職業というのは、単にお金を稼ぐ手段ではありません。その仕事をする事で、生きていくために必要な充実感、人間としての誇り、そして仲間や友人を得ることができます。職業は、その人と社会・世界をつなぐ 窓のようなものであり、大切な架け橋のようなものです。・・・村上龍〉

